

⇒市長が行った施政方針と令和2年度予算案の大枠に対して、各会派から選ばれた1人の議員が質疑を行うことです。

にほんきょうさんとうぎいんだん
日本共産党議員団
わかばやし しづこ
(若林 志津子 議員)

問 「新たなギアチェンジ」とはギアを上げることなのか、下げることなのか。これからの人口減少を考えたとき、発展よりは、縮小の考えを持つべきでは。

市長 もちろんギアを上げること。人口減少等への影響は十分認識している。将来にわたって活力あるまちを維持していくため、安心して結婚・出産・子育てができる社会構築や安全安心な暮らしのためにやることは山積している。前向きな気持ちという意味のギアを上げていく。

問 「あらゆる分野における女性の社会参加を促進」とあるが、具体的な取組は。

部長 イベントや講演会、セミナー、シンポジウムなどにより、誰もが活躍できるまちを目指して啓発を行っている。

問 廃プラスチックの対策を考えているか。国からの指標は示されているのか。

蒼天 (そうてん)

えんどう ひであき
(遠藤 英明 議員)

問 消費税増税後に落ち込んだ日本経済に新型コロナウイルスが追い討ちを掛けリーマンショックを超える不況が予測されるが、富士宮市にどのような影響を及ぼすと考えるか。

部長 外需中心の製造業に影響が出始めている。部品の代替等サプライチェーンの見直しが検討されていると報告を受けている。

問 富士山噴火リスクに伴う改訂版ハザードマップの国・県との協議進捗状況はいかがか。また、ハザードマップを市民に示すのはいつか。

部長 ハザードマップ検討状況説明会で溶岩流の到達時間等シミュレーションを行っている。ハザードマップの完成は令和2年度末を予定。

問 下水道事業の公営企業会計導入の機会に上水道との統合は考えられないか。

部長 事務部門を統合することは可能。業務の集約のメリット等勘案し検討していきたい。

部長 市はふじのみや地球温暖化対策地域協議会、民間事業者との三者で協定を結び、マイバック運動、エコキャップ回収に取り組んでいる。また、国の指標については、プラスチック資源循環戦略で2030年までに使い捨てプラスチックを累積25%排出抑制するよう示された。

問 上下水道事業で今後も市民の大切な財産である水を、企業の使命である利益追求の道具にさせないとの考えは。

部長 平成31年2月定例会の一般質問で「公営で運営していく」と答えたとおりであり、現在も変わっていない。下水道事業も同様である。

問 「高齢者をたたえる気持ちを持つ事も大切」とあるが、「高齢者を大事にする」新たな施策なり、市民へのPRなど考えているのか。

部長 敬老会を実施する自治会に交付金を出している。市内最高齢者の男女及び100歳の方を訪問しお祝いする長寿祝金がある。希望があれば新聞等に掲載され事業の周知になっている。

問 台風15号による倒壊電柱は甚大な被害となった。救援活動や通行の妨げにもなる。そこで無電柱化を図るべきと考えるが、いかがか。

部長 無電柱化に係るあらゆる要素を総合的に整理し、無電柱化を効果的、効率的に進めるための実現可能な計画として考える。

問 市内中学生の被爆地広島への派遣は、核廃絶を訴えるも核兵器禁止条約に背を向ける日本政府の立ち位置に、何を学ばそうとするのか。

部長 現在、当市が取り組んでいるSDGsの中の「平和と公正をすべての人に」目標に合致するもので、持続可能な社会を実現するため、自らの問題として主体的にとらえ、取り組む学習、教育活動につながると考える。

問 地方自治体も常に改革・変革を求められる、経済財政改革にどのような方針で臨むか。

部長 第5次総合計画後期基本計画を策定中、特に人口減少・少子高齢化対策やSociety5.0*への対応など課題としている。

*仮想空間と現実空間を融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもの。